

最後に「株式会社ウム・ヴェルト・ジャパン」へ。ここは蛍光管リサイクルの会社。



しかも、煙・臭気・汚水を一切出さずに！素晴らしいのは、発泡スチロールの高さ。発泡スチロールを熱で溶かすと、再製品化したときに耐久性の弱いプラスチック製品ができてしまう。しかしここでやっているように、液体につけてゲル化させれば耐久性は維持される。すごい。魔法みたい。だんだん「資源循環工場」の意味がわかってきたぞー。

どの工場もクリーンではあるが、やはり暑い。この暑さの中を働くみなさんの姿に胸を打たれ、「資源の循環

社内に設けられた工房でガラス工芸が体験できる！（要予約）蛍光管から回収されたガラスでオリジナル作品が



日本では年間六億七千万本の蛍光管が廃棄され、その八割は水銀を含んだまま埋め立てられている。こわーい。ここでは蛍光管を、口金・ガラス・水銀に分解し、それぞれを再製品のための資材として世に送り出している。回収された蛍光灯を一本一本拭いている社員の方々の丁寧な作業に感動。さらに、

さなければならぬから。しかし利益追求に走って環境問題をないがしろにしないよう、県が目光らせている。実際、この工場での操業を希望した企業は二十社。そのなかから県が安全性も厳しく審査し選ばれ

るほど！と感じた。どの企業も必死なのだ。利益を出さなければならぬから。しかし利益追求に走って環境問題をないがしろにしないよう、県が目光らせている。実際、この工場での操業を希望した企業は二十社。そのなかから県が安全性も厳しく審査し選ばれ

民間主導で運営を行う手法）の有益さを訴えていた。正直、何がそんなによろしいのか分からなかった。でも「資源循環工場」を見学して、なるほど！と感じた。どの企業も必死なのだ。利益を出さなければならぬから。しかし利益追求に走って環境問題をないがしろにしないよう、県が目光らせている。実際、この工場での操業を希望した企業は二十社。そのなかから県が安全性も厳しく審査し選ばれ



できることはしなくちゃね。西山さんは以前からPFI方式（公共的施設に民間の資金やノウハウを活用して



らゆる廃棄物を受け入れ、めに「オリックス資源循環株式会社」へ。ここではあ



企業に土地を貸している：つまり家賃を稼いでいるのだ！うーん、こりや素晴らしい。参議院議員の高野ひろし

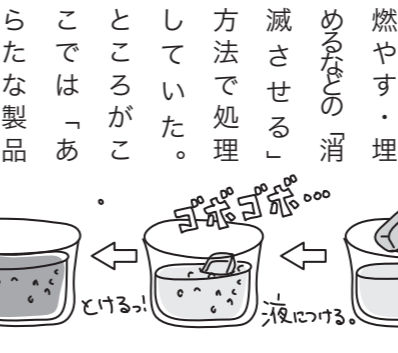


ちゃん偉い！

た九社だけが立地できたのだ。今や国内からはもちろん、海外からの視察も多く、世界的な注目を集めているのだーすごい！



「リサイクルすれば、うまくなる。埋めたいものは、埋めたい。また溶剤も利用でき、プラスチック製品の原料に！」

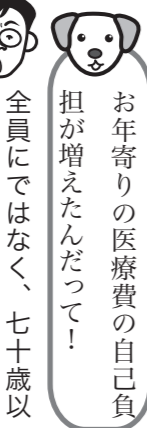


燃やす・埋めるなどの削減させる方法で処理していた。ここでは「あらたな製品の原料に変える」方法をとっていた。

ダイオキシンの出ない高温反応炉で処理。発電用燃料や建設資材、製鉄原料などをつくっていた。しかも！精製ガスを利用して発電までしちゃって、その電力を売ってるんだってー。おどろき。再資源化率は100%で、一日に四十五万人分のゴミを資源化しているそうです。あっぱれ。次に「広域プラスチックリサイクル協同組合」で発泡スチロールのリサイクルをみた。発泡スチロールは今まで

ズバリ答えます！負担増問題

お年寄りの医療費の自己負担が増えたんだって！全員にはなく、七十歳以上で現役並みの所得（夫婦二人で年収五二〇万円以上）の方に三割負担（以前は二割）をお願いした。今後は、医療費の三割を占める生活習慣病（糖尿病、高血圧など）対策の強化など、「治療」から「予防」に重点を移し、医療費削減を図ります。



リハビリを加えた

介護施設の利用料が急に高くなったらしいけど？介護保険はサービス利用者が倍増。でも保険料アップは難しい。そこで施設介護での食事代・居住費・光熱費という「ホテルコスト」を保険から外した。在宅介護で頑張ってる人には元々ないもの。公平性という点でぜひご理解を。一方リハビリなどの予防対策を保険の対象に加えました。

「年金安心100年プラン」って言うんだけど、本当に大丈夫？もちろん大丈夫。少子化対策にも懸命だし、いざという時の積立金もある。定率減税の廃止も、その増税分は基礎年金の財源に回すという約束通り（四年前の衆院選の公約）。保険料のアップも二〇一七年で打ち止め。これも約束通りです。ご安心を。

公明党は「福祉の党」なのに、なぜ負担増の社会保障改革なの？最大の理由は、少子高齢化で人口バランスが変化すること。二〇二五年には二人の現役世代で一人の高齢者を支える形になる。だから、年金も医療も介護も給付がどんどん増えている。「福祉の党・公明党」だからこそ、将来を見通して、「持続可能な制度」への改革に挑戦しているんだ。

「年金安心100年プラン」って言うんだけど、本当に大丈夫？もちろん大丈夫。少子化対策にも懸命だし、いざという時の積立金もある。定率減税の廃止も、その増税分は基礎年金の財源に回すという約束通り（四年前の衆院選の公約）。保険料のアップも二〇一七年で打ち止め。これも約束通りです。ご安心を。

2025年には... 年金・医療・介護 二人で一人は重いよ！ 今から将来を見据えた改革をしなければ。